

富山の職人技を披露

瀋陽で県産品セミナー・フェア

伝統工芸や食文化紹介

【瀋陽＝岡部道典】富山の伝統工芸や食をPRするセミナーとフェアが7日、それぞれ在瀋陽日本国総領事館公邸と瀋陽市内の複合商業施設で初めて開かれ、若手職人による実演や地酒の試飲などを通じて、富山が誇る伝統工芸や食文化を発信した。現地のメディアやバイヤー、来店客らが県産品の幅広い魅力に触れた。



富山の食や地酒が注目を集めた県産品フェアの鏡開き
—瀋陽市内の複合商業施設(岡部道典撮影)

「とやま県産品セミナー」には、現地の旅行会社関係者やバイヤー、県友好代表団(団長・石井隆一知事)ら約70人が参加した。シマタニ昇龍工房4代目で高岡銅器職人の島谷好徳さん、高岡市IIが薄く引き延ばしたスズを自由に折り曲げる「すずがみ」の制作を実演し、柔らかい音色を出す仏具「おりん」の聞き分けも行った。

引網香月堂(高岡市)の越中和菓子職人の引網康博さんは日中の文化交流が長く続くことを願い、菊をかたどった上生菓子などを仕上げた。樹田酒造店(富山市)から現地の飲食店チェーンに出向して中国、台湾で日本酒の普及に務める細田真さんは、富山の地酒を紹介した。

石塚英樹在瀋陽日本総領事が「職人ものづくりの精神とヒリリと冷えた地酒で暑さを忘れてほしい」とあいさつ。石井知事も「富山の味覚と工芸品の魅力を楽しんでほしい」と述べた。来場者にはウーケ(入善町)の県産米パックご飯が贈られた。



実演でつくった和菓子を提供する職人II瀋陽市の在瀋陽日本国総領事館公邸

フェアの開幕式では石井知事、石塚総領事、高野行雄県議会議長、高木繁雄県庁長官らが鏡開きし、来場者に地酒を振る舞った。遼寧省の経済特区を視察
県産品セミナー、フェアに先立ち、県友好代表団(団長・石井知事)は遼寧省の「瀋撫新区」を視察し、李克強首相が省書記時代に提唱した経済特区の現状に理解を深めた。

「瀋撫新区」は瀋陽、撫順両市にまたがる171平方キロの区域で、ビッグデータや健康、AI(人工知能)関連の産業集積を目指している。中国の「一帯一路」構想で、北東アジアの玄関口として位置付けられている。視察後には、瀋陽市内の商工会議所連合会長と遼寧省幹部らが鏡開きし、来場者に地酒を振る舞った。

日中友好県地方議員連盟訪中団(団長・鹿熊正一会長)には、米原顧問の秘書、陳志峰さんが同行している。2人の交流は32年前、遼寧省から「少年の翼」事業で富山を訪れた陳さんが、米原顧問宅にホームステイしたことがきっかけ。以来、家族同然の付き合いを続け、中国で起業し経営者となってからも、草の根で日中友好の懸け橋の役目を務める。

日中友好県地方議連



米原顧問との再会を喜ぶ陳さん(中央)と陳さんの娘
II瀋陽市内のホテル

同行の秘書・陳さん
米原顧問と交流32年
「出会いが人生変えた」
強調する。富大に留学し、帰国後に建機レンタルの合併会社を起した際も、米原氏から支援を受け、事業を軌道に乗せることができた。
今では飲料販売の事業も手掛け、社員約1千人を抱える企業にまで成長した。陳さんは「富山とのつながり、人と人の縁で今の私がある」と語る。県と遼寧省が友好県省を結んでから来年で35周年。自治体間の交流にとどまらず、長年にわたって培われた人の結び付きが友好関係を支えている。

瀋陽で「とやま県産品セミナー」

食と伝統工芸 魅力発信

政府関係者やバイヤーに富山の伝統工芸品の魅力を伝えたセミナー。在瀋陽総領事館



富山県の食や伝統工芸の魅力を伝える「とやま県産品セミナー」が7日、中国・遼寧省の在瀋陽総領事館で開か

れ、現地の政府関係者やバイヤー、報道機関など約70人に富山ブランドを発信した。総領事館と県が合同で企

画。高岡銅器の伝統工芸士、島谷好徳さんが自由に曲げられるスズ製の食器「すずがみ」の製作を実演したほか、和菓子店「引網香月堂」（高岡市）の引網康博さんが和菓子づくりを披露した。

榊田酒造店（富山市）の社員で、現在は台湾で日本酒の普及に取り組んでいる細田真さんは、伝統の味を守ると同時にウイスキーのたるを使うなど新たな日本酒づくりに挑戦していることを紹介した。

瀋陽市の商業施設では県産品フェアも開幕。高岡漆器や高岡銅器、富山米のご飯、地酒などのブースを構え、多くの人でにぎわった。フェアは11日まで。